

東京工業大学工学部

学士論文

〇〇の高性能化に関する研究

指導教員 工大 一郎 教授

理工 二郎 准教授

平成28年2月

提出者

学科 情報工学科

学籍番号 12_34567

氏名 大岡山 太郎

指導教員認定印		
学科長認定印		

〇〇の高性能化に関する研究

指導教員 工大 一郎 教授
理工 二郎 准教授
情報工学科
12.34567 大岡山 太郎

研究の背景と目的はカクカクシカジカ。研究の背景と目的はカクカクシカジカ。研究の背景と目的はカクカクシカジカ。研究の背景と目的はカクカクシカジカ。

従来の研究成果はカクカクシカジカ。従来の研究成果はカクカクシカジカ。従来の研究成果はカクカクシカジカ。従来の研究成果はカクカクシカジカ。

本研究では新たにカクカクシカジカの検討を行なった。本研究では新たにカクカクシカジカの検討を行なった。本研究では新たにカクカクシカジカの検討を行なった。本研究では新たにカクカクシカジカの検討を行なった。

その結果、カクカクシカジカの成果と得ることができた。その結果、カクカクシカジカの成果と得ることができた。その結果、カクカクシカジカの成果と得ることができた。その結果、カクカクシカジカの成果と得ることができた。

従来の成果に比べて本研究で得られた成果は大変優れている。従来の成果に比べて本研究で得られた成果は大変優れている。従来の成果に比べて本研究で得られた成果は大変優れている。従来の成果に比べて本研究で得られた成果は大変優れている。

残された課題としてはチョメチョメが挙げられる。残された課題としてはチョメチョメが挙げられる。

目 次

第1章

序論

研究の背景と目的はカクカクシカジカ．研究の背景と目的はカクカクシカジカ．

従来の研究成果はカクカクシカジカ．従来の研究成果はカクカクシカジカ．

本研究では新たにカクカクシカジカの検討を行なった．本研究では新たにカクカクシカジカの検討を行なった．

その結果，カクカクシカジカの成果と得ることができた．その結果，カクカクシカジカの成果と得ることができた．

従来の成果に比べて本研究で得られた成果は大変優れている．従来の成果に比べて本研究で得られた成果は大変優れている．

本論文の構成は以下の通りである．本論文の構成は以下の通りである．本論文の構成は以下の通りである．

第2章

準備

2.1 準備-1

[illegible]

2.2 準備-2

準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2.
準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2.
準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2. 準備-2.

第3章

主な結果

3.1 結果-1

[illegible]

3.2 結果-2

[illegible]

第4章

数値例と考察

4.1 数值例

数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值
例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值
例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值
例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。数值例。

4.2 考察

考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考
察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考
察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考
察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，考察，

第5章

結論

結論はかくかくしかじか．結論はかくかくしかじか．結論はかくかくしかじか．結論はかくかくしかじか．結論はかくかくしかじか．結論はかくかくしかじか．

残された課題はかくかくしかじか．残された課題はかくかくしかじか．残された課題はかくかくしかじか．残された課題はかくかくしかじか．

謝辞

皆さんに感謝。皆さんに感謝。皆さんに感謝。皆さんに感謝。皆さんに感謝。
皆さんに感謝。皆さんに感謝。皆さんに感謝。皆さんに感謝。皆さんに感謝。
皆さんに感謝。皆さんに感謝。

参考文献

- [1] 齋藤 正彦：線型代数入門，東京大学出版会，1966
- [2] 高木貞治：初等整数論講義(第2版)，共立出版，1988(昭和53)
- [3] D.E. Knuth: *The Art of Computer Programming*, 2nd Ed., vol.1 Fundamental Algorithm, Addison-Wesley, 1973
- [4] J.M. Wozencraft, I.M. Jacobs, *Principles of Communication Engineering*, John Wiley & Sons, Inc., 1965
- [5] J.G. Proakis, *Digital Communications*, McGraw-Hill, 1995 (邦訳：デジタルコミュニケーション，科学技術出版社，1999)
- [6] A. Hocquenghem, “Codes correcteurs d’erreurs,” *Chiffres*, vol.2, pp.147–156, 1959
- [7] R.C. Bose and D.K. Ray-Chaudhuri, “On a Class of Error Correcting Binary Group Codes,” *Information and Control*, vol.3, pp.68–79, 1960
- [8] G. L. Feng and T. R. N. Rao, “Decoding Algebraic-Geometric Codes up to the Designed Minimum Distance,” *IEEE Trans. Inf. Theory*, vol.IT-39, pp.37–45, 1993
- [9] 真面目 楽太郎, “楽に卒業する方法について,” 電子情報通信学会論文誌, vol.J101-Z, no.13, pp.5398–6421, 2022

付録 A

定理1の証明

付録 B

定理2の証明